



『ナミヤ雑貨店の奇蹟』……米 (東野圭吾 / KADOKAWA)

やはりお弁当は米が命だ。どんなに疲れていても、米をかきこめば力が湧いてくる。しかも、どんなおかずにも合うのである。というわけで、どんな気持ちの時もずっと心に入ってくる、そして読むと満足感でお腹をいっぱいにしてくれる東野圭吾先生の作品の中から『ナミヤ雑貨店の奇蹟』をオススメしたい。(山原)

『オーパ!』……魚料理全般 (間高健 / 集英社)

フルカラーの写真を見ているだけで異国情緒にウっとりしてしまうけれど、奔流のごとくほとほと過熱した文章を読むとやったこともないのに「イッシンク」感がかきたてられて、なによりお腹が猛烈にすく。お弁当に入るサイズのお魚もいっぱいけど、やはり大きな魚も捨てがたいなあ。(中川)

『誕生日のアップルパイ』……おいなりさん (庄野千寿子 / 夏葉社)

運動会や墓参りの時に食べるお弁当には、いつも祖母のつくおいなりさんが入っていた。甘い皮の中に、甘酸っぱい餡餠がたっぷり詰まっている。でかい「おいなりさん」。この本は、作家・庄野潤三の妻である千寿子さんが、子や孫と幸せの贈り合いをする日々の中で、娘に死んでしまったための書簡を連ねている。どこか暖かく、ほおばれば心から満たされてゆく、まるで「おいなりさん」のような1冊。(齊藤)

「いずみのほとり」とは……

大学生協が発行しているフリーペーパー『読書のいずみ』。本や、本を通して生まれるさまざまな人・世界との出会いを発信しています。作家や編集者、研究者の方への取材記事から、学生スタッフのエッセイ、おすすめの本を紹介するコーナー、などなど……。そんな『いずみ』をもっと知って、もらいたい。いずみ編集委員の学生がおくる、年書きのミニ冊子です。もっと本を身近に感じる、きっかけづくりができたかな、と思っています。



『いずみ』
本誌の
Web版
はコチラ

感想を
ぜひ
寄せてください
←

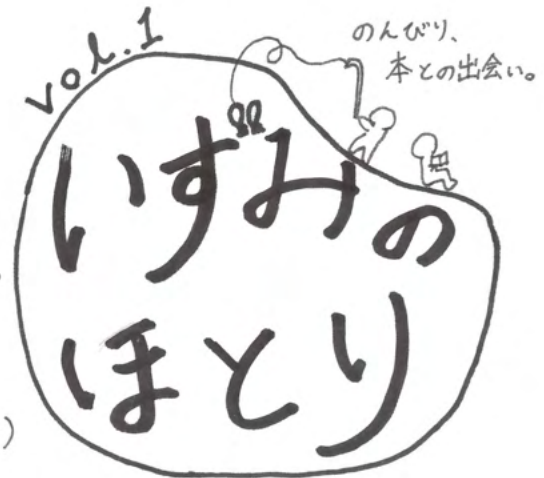


本でお弁当

つくってみた!!!

「いずみのほとり」でしたいことといえば、ピクニック。ということで、お弁当のおかずになぞらえたおすすりめ本を紹介しす。

選考した
いずみ委員
山原和葉 (同志社大学)
中川倫太郎 (東京科学大学)
齊藤ゆずか (京都大学)



Take Free

『タガヤセ! 日本』……弁当箱 (白石優生 / 河出書房新社)

そもそも、お弁当箱がなくてはお弁当は持て、いけない。そして、農業がなければ食べ物はなく、お弁当はできない!! というわけで、「お弁当箱」にあたる本として、『タガヤセ! 日本』を紹介しよう。この本は、農林水産省のYouTubeチャンネル「BAZMAFF」でお馴染みの白石さんが愛したふりに日本の農業について、そして、農業の面白さについて紹介してくれる。お弁当と根幹の根幹から見つめ直してみるのは、いかがだろうか。(山原)

『ミーツ・ザ・ワールド』……うま煮 (金原ひとみ / 集英社)

タイトルの「ミーツ」は焼肉の肉だし、物語の中に登場する料理は羊煮だ。でも、今回はお弁当のメインディッシュに据えたいので、汁気を抜いてうま煮としたい。この物語は、病女子で恋愛に自信のない由嘉里が希死念慮を抱えたキャバ嬢のライに出会うところから始まる。不器用で、壊れてはいけぬ自分のままでもがく個性豊かな登場人物たちは、口の中でもごろごろとぶつかり、噛めばぎゅっと濃い味がして、おなかに入ると生きる力がわいてくる。(齊藤)

『コーヒーの科学』……コーヒー (旦部幸博 / 講談社ブルーバックス)

食後にはふだい、飲み物があると、普通の食事でも空腹をみたすだけではない、ラフジュアリーな気分を味わえる。コーヒーは胃酸の分泌を促進して消化を助けてくれるし、なにより気分が落ち着く。眠気覚ましにも最適である。人間は食事を味わう以上に感覚を味わっているのだから、コーヒーを飲む。(中川)